

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 大牟田市立中友小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒836-0025
大牟田市中友町1-20

E-mail nakatomo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website _____

児童生徒数 男子 71 名 女子 71 名 合計 142 名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 福祉教育 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

本校では、一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ、5年生児童が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり、地域包括支援センターが実施する徘徊SOSネットワーク模擬訓練に参加したりしている。また、校区内に和菓子屋さんが多いという点も地域の特色であることから、饅頭の歴史を調べたり、実際に作ったりする活動を通して、地域への関心を高め、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域に対して自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育て、共生社会の構築を目指す取組を推進している。

生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】

- ・ 1年生（生活科）・・・「友だちや身近な人たちとなかよくなるよう」
- ・ 2年生（生活科）・・・「あそび大すき、あつまれ」
- ・ 3年生（総合）・・・「心の目を育てよう」「保育園の子どもとふれ合おう」
- ・ 4年生（総合）・・・「大牟田よかところPR！子ども世界遺産まんじゅうをつくろう」
「二分の一成人式をしよう」
- ・ 5年生（総合）・・・「お年寄りとふれ合おう～子ども民生委員活動を通して～」
- ・ 6年生（総合）・・・「高齢者福祉について考えよう」

【実践事例】

I 4年生「大牟田よかところPR！子ども世界遺産まんじゅうをつくろう」（28時間）

(1) 学習のねらい

- 大牟田の饅頭について関心を持ち、課題を見出すことができる。（問題設定の能力）
- 饅頭に込められた和菓子屋さんの思いや饅頭作りのポイントを生かしながら、饅頭のアイデアを話し合うことができる。（課題解決の能力）
- 「子ども世界遺産まんじゅう」作りを通して、地域の良さを発信し、地域への関心を高めるとともに、自分たちにできることを考え、実践していくことができる。（自己の生き方）

(2) 実践の展開

- ①大牟田の饅頭について自分の課題を持ち、その歴史を調べる中で、カステラ饅頭が炭鉱で働く人々にとって、手軽に食べられ疲れを癒やす食べ物であったことを学習した。
- ②本年度、大牟田市の炭鉱関連施設が「世界遺産登録」を受けたことと関連させ、地域学習を行い、大牟田の宝について調べた。
 - ・ 大牟田の宝を伝えよう（地域学習「世界遺産」）
 - ・ 和菓子屋さん見学、カステラ饅頭作りを体験し、饅頭に込められた和菓子屋さんの思いや願いを知り世界遺産まんじゅう作りへの意欲を高めた。
- ③「世界遺産まんじゅう」のアイデアをグループごとに考え、和菓子屋さんへ伝えた。その中で、饅頭として形にできること、変えた方がよいものなどの助言を聞いた。数日後、和菓子屋さんから試作品を発表してもらった。想像以上のできあがり、教室は歓声に包まれた。
- ④世界遺産まんじゅう販売の準備を行い、12月10日、地域の商店街の十日市で販売を行った。当日は、5分で完売するほどの盛況ぶりであった。

ア 宮原坑(やぐらまんじゅう)

白あんにチョコチップ(石炭) やぐら(ビスケット生地で)

赤い煉瓦は羊羹で

イ 電車機関車炭鉱鉄道まんじゅう

赤い電車のイメージ(ピンク)

あんは、上内みかんを使って
饅頭の型抜き→電車の形

ウ 三池港はちどりまんじゅう

海の色(青)、石炭(黒)



販売した子ども世界遺産
まんじゅう

Ⅱ 5年生「お年寄りとふれ合おう」～子ども民生委員活動を通して～(26時間)

(1) 学習のねらい

○地域の民生委員さんの仕事や役割について話を聞いたり、「子ども民生委員活動」を経験したりして、よりよい関わりを深めていくことの大切さに気づき、課題を見つけることができる。
(課題設定の能力)

○疑似体験をしたり、資料を活用したりして高齢者の体や暮らしについて調べることができる。
(課題解決の能力)

○学んだことを生かし、日常生活の中で、お互いが思いやり、いたわり合うことのできる。高年齢者や地域の方々とはふれ合おうとすることができる。
(自己の生き方)

(2) 実践の展開

①地域の民生委員さんの仕事や役割について話を聞いたり、一人暮らしのお年寄り宅訪問を体験したりして活動の見通しや課題をもった。そして、民生委員の委嘱状をいただき、「子ども民生委員」の名刺を配って、独居老人宅を訪問した。

②絵本教室で、認知症について学習を行い、高齢者の体や暮らしについて理解を深め、9月末に行われた徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練に参加し、認知症の方への声かけや接し方を体験した。また、敬老会では、会場の準備をしたり、当日は優しく案内をしたりして、地域の高齢者の方とはふれ合うことができた。

③12月は、民生委員さんと一緒に「赤い羽根共同募金運動」も行い、地域の福祉活動についても学んだ。

○成果

- ・それぞれの学年で、昨年度までの取組を継続したり、新たに学習内容を変えたりして、教職員の共通理解のもと全学年でESDを実践することができた。その中で地域の方との連携(校区民生委員・和菓子屋さんなど)が強化された。
- ・今年度は大牟田市の良さを伝えるために「子ども世界遺産まんじゅう」を考え、販売するという発信を行った。地域の商店街で、十日市の日には販売したことで、大きな注目を浴び、子ども達だけではなく、保護者・地域の方の郷土への関心をも高めることができた。
- ・地域の方との関わりが増え、日常的な挨拶や地域の行事への参加が増えた。

○課題

- ・地域・他校への発信の仕方の工夫。
- ・身に付ける力を明確にした学習の進め方と評価

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）